

安心して生んで育てられる町、健やかに充実して暮らせる町

八雲町は医療機関や福祉施設が充実した町です。全面改築工事が進む町立八雲総合病院は、道南北部地域のセンター病院として広域的な役割を果たしています。産婦人科と小児科があり、若い子育て世代にとっては安心して生んで育てられる町として評価されています。町では産婦人科外来を受診する妊婦の医療費を独自に助成しています。また、熊石国民健康保険病院は高齢化の進む熊石地域における地域医療を担っています。国立病院機構八雲病院は、道内随一の小児期発症神経筋疾患専門病院です。

昭和57年に始まった「町民ドック検診」は名古屋大学をはじめとする10前後の大学医療機関から、大勢の医師等スタッフが毎年八雲町を訪れ、町民約600名が受診している全国的に類例を見ない町民検診です。

子育て支援については、子育て支援センターの「スマイル」と「ひまわり」の2カ所を設置し、子育て家庭への支援を行っています。また、子ども発達支援センターは障がいや発達に心配のある子どもと家族への支援のために相談体制を整えています。保育園は町内に認可保育園6カ所、無認可の季節保育園2カ所、幼稚園は2カ所、児童が放課後を過ごす学童保育所は3カ所あります。

や介護保険事業を推進するとともに、各種介護施設の整備を推進してきました。道内では高齢化率が比較的低い八雲町も、高齢者数は確実に増加しており、今後は在宅サービスの充実が求められています。また、障がい者が高齢者や子どもたちと集う共生型地域サロンを併設する障がい福祉サービス事業所も2カ所設置されています。



● **八雲総合病院（町村立病院としては、全国最大規模）**

道南北部地域の中核病院として、高度医療、救急医療に対応するほか、周辺自治体の無医地区への巡回診察も行う。内科・心臓血管内科・リウマチ科・外科・小児科・精神科・産婦人科・眼科・耳鼻咽喉科・整形外科・脳神経外科・皮膚科・泌尿器科・麻酔科・放射線科・歯科・リハビリテーション科の17診療科目を持つ。病床数358。



● **八雲総合病院新生児室**



● **ケアハウス**
シルバープラザに隣接する、「ケアハウスひまわり」と「ケアハウスなのはな」は、58室の居室で充実した生活のできる施設。



● **介護老人保健施設**
老健施設「コミュニティホーム八雲」は、入所90名・通所40名で、八雲総合病院などと連携を取りながら幅広いサービスを提供。



● **特別養護老人ホーム／厚生園（左・八雲地域）、くまいし荘（右・熊石地域）**
厚生園（64床）とくまいし荘（55床）、共に短期入所生活介護（ショートステイ）を併設、厚生園は小規模多機能型介護施設、くまいし荘は熊石デイサービスセンターの運営など地域の高齢者介護福祉施設の拠点として運営に取り組んでいる。



● **総合保健福祉施設シルバープラザ**

八雲町の福祉サービスの拠点となるシルバープラザ。八雲町役場保健福祉課・八雲町社会福祉協議会の事務所が置かれ、デイサービスセンター、生きがいセンター、保健センターの機能が集約されている。町民ドックや健康の集いも行なわれる。



● **学童保育所**
八雲地域に「八雲学童保育所わんぱくクラブ」と「共同学童保育所どんぐりクラブ」、熊石地域には「熊石共同学童保育所」がある。



● **保育園**
認可保育園は町立3園、民間3園。ほかに町が設置して運営を委託する季節保育園2園での保育支援を実施。



● **子育て支援センター**

「スマイル」の「子育てサロン」は0～1歳の家庭の親子が集う。「ひまわり」の「とことこルーム」は乳幼児のおもちゃを使い親子で遊ぶ。ボランティアグループの「八雲子育てサポート・たち」は、町主催事業での集団託児を無償で行うほか、個人託児を有償で行う。



● **学童保育所**
八雲地域に「八雲学童保育所わんぱくクラブ」と「共同学童保育所どんぐりクラブ」、熊石地域には「熊石共同学童保育所」がある。



● **保育園**
認可保育園は町立3園、民間3園。ほかに町が設置して運営を委託する季節保育園2園での保育支援を実施。

● **インタビュ**
菊地千佳子さん
札幌市学童保育連絡協議会会長

子が育ち、親たちも育つまち
優しい子育てをつむいでほしい！

私は十勝で生まれましたが、5歳の時に父を亡くし、父母の故郷八雲町に戻り、祖父母と暮らすことになりました。母が仕事でいない放課後は、近所にくる児童館に遊びに行き、楽しく過ごし淋しい思いをしなかつた事に感謝しています。若い館長さんが卓球を教えてくださいました。合い、書道や珠算を高校生が教える日を作ってくれました。今思えば、館長さんを中心に小学生から高校生まで、群れて遊ぶ学童保育そのもので、豊かな放課後の経験は自分の子育てにも大きく影響しています。

現在、札幌医療秘書福祉専門学校で教員をしています。20年間看護師として働きながら二人の娘を育ててきました。長女が生まれた時は、お金を払って利用する保育で良いと考えていました。しかし、障がいを持って次女が生まれて気づかされた事が沢山ありました。夫婦二人では不安でたまらない時、支えてくれる仲間が必要だということ。仕事を続けられたのは、職場の仲間の支えがあったからです。心が許せる学童保育の指導員や親同士の関係は、地域の中の“大切な居場所”です。学童保育は、まず親が親として育ちます。子どもたちは1年生から6年生まで、縦の繋がりの中で、群れて遊び学びます。八雲町は周辺町村より早期から学童保育があり、小さな町に3箇所もあります。子どもたちがワクワクドキドキ汗だくになって遊べるまちを、これからもつむいでいかなければと思います。



● **グループホーム**

認知症対応型共同生活介護施設としては「グループホームきずなⅠ・Ⅱ」、「グループホームすまいる熊石」がある。



● **障がい福祉サービス事業所（共生型地域サロンを併設）**

地域のコミュニティづくりを目指し「共生のまちづくり」を実践するため「共生型サロン 八雲シンフォニー」と「支援ハウス きずな」がある。



● **八雲町熊石国民健康保険病院**

診療科目は内科、外科の2科、病床数99。八雲総合病院と連携して、地域に密着した医療を行う。



● **国立病院機構八雲病院**

小児期発症の神経筋疾患専門病院。院内には家族と過ごせるホームケア室があり、隣接して小中高等部併設の北海道八雲養護学校がある。



● **八雲町感染対策ネットワーク（YIC-Net）**

「うつらない・うつさない・ひろげない」を理念に、近隣町村の幼稚園、保育園や高齢者施設、学校、病院など48施設が連携し、インフルエンザやノロウイルスなどの感染症の拡大阻止を目指す。その活動は、感染症情報の発信と共有化、各種講習会、キッズセミナーなど多岐にわたる。



● **乳幼児検診**

3カ月～3歳児までの検診のほか、町独自で5歳児相談、母子支援事業「ほっとママの会」など、母親のメンタルヘルス支援を実施。



● **町民ドック検診**

旧尾張藩士による開拓が縁で、名古屋大学等の協力により開始。長期間にわたる検診によって得られた様々なデータは医学的成果として全国的な保健対策にも影響を与え、国内外で高く評価されており、八雲町民の健康づくりや生活の質の向上、健康寿命の延伸、介護予防の基礎づくりに寄与している。50名以上の医師、検査技師などにより実施されるこの検診は、一自治体で実施する集団検診として非常に充実した内容になっている。

